

「トイレの確保忘れないで」

十和田市立中央病院は19日、市民あんしん生活活用講座を開催した。同病院消化器病センター長で日本DMAT隊員・統括DMATの藪内伸一氏が講演し、2024年1月の能登半島地震に対応した経験などから「飲食物の備蓄は重要だが、トイレの確保も忘れてはいけない」など、災害への備えについて語った。

十和田



DMAT 藪内氏 災害への備え語る

災害への備えについて講演する藪内氏

高まりを感じた」と手応えを語った。

今回は十和田市に大きな被害はなかったが油断せず、日頃からハザードマップなどを確認し、想定される被害や避難所への移動方法を考える必要があると強調。物流が途絶える可能性から、飲食物などの備蓄は7日分は必要―とした。

また、DMATとして能登半島地震の救援に駆けつけた経験を振り返り「電気や水道よりも下水の方が復旧に時間がかかる。イベント用の移動トイレは和式で手すりがないなど不都合が多く、避難所のトイレは人が多く汚れやすい。トイレを我慢しようと食事や水分補給を控えるとエコノミークラス症候群のリスクが高まる」として、個人宅で使える簡易トイレの準備を呼びかけた。

講演には市民ら約30人が参加した。

（三浦康平）

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。